

中国側申出ノ条件ニテ交通銀行借款交渉取纏

メ方訓令ノ件

第五六二号 至急

貴電第一一八二号ノ件貴電通りニテ異議無キニ付至急話ヲ纏メラレ度但シ(一)債権者ニ台湾銀行ヲ加フルコト(二)仮契約全文ヲ一応貴官ヨリ電報セラレ債権者ニ於テ之ヲ承認ノ上貴官ノ監督ノ下ニ西原ト支那側トノ間ニ仮契約ヲ締結シ直チニ河野ニ引繼クコトト致度西原ト河野トノ關係ニツイテハ円満ヲ欠クコトナキ様貴官ニ於テ可然御取計相煩シタシ、日本興業銀行ハ直チニ代表者ヲ貴地ニ派遣シ日本曆七月二十日迄ニ本契約ヲ締結スルコトトナス筈ニ付右御含アリ度シ

五三三 十二月三十日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

交通銀行借款契約至急調印ノ希望等ニ付曹汝霖ノ談話報告ノ件

第一一九六号

廿八日曹汝霖出淵来訪ノ際今回ノ交通銀行借款ハ北洋派側ニ於ケル先ツ経済的方面ヨリ日本ト提携セントノ考案ニ出

交通銀行ノ件

右借款交渉ハ過去数ヶ月間弊社員河野久太郎北京ニ滞在致シ林公使ノ御指図ヲ受ケ之ニ当リ候処過日來在東京支那公使ヘ何カ申入候者モ有之又北京ニテモ別ニ此件ニ付支那側ニ相談致居候者モ有之哉ニ被察候此別働ヲナス向ハ貴省及大蔵省ニ於テ御承知ノコトニハ無之ト存候得共当事者タル河野ニ於テハ甚ダ困難ノ地ニ立ツコト相成候ニ付從來通り河野ニ於テ交渉ノ局ニ当リ可申御存意御変更無之候ハバ何卒御關係ノ各方面ニ於テ此儀充分含ミ置カレ候様致度今朝參上仕候得共御不在ニ付書中申上候
本年中ハ諸事御厚配ヲ蒙リ奉深謝候尚明年モ宜敷御高底ノ程奉懇願候 敬具

三 広東省セメント廠借款

五三五 七月十五日

在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

竜光台湾銀行へ百万円ノ借款申込ノ件

第一九五号

六 对中国借款關係雜件 (三) 五三四 五三五 五三六

デタルモノニテ契約成立ノ上ハ外交部ヨリ日本公使館ニ照会スル等ノ形式ニテ中央政府ニ於テ承認スルコトトナス可キニ付日本側ニテ担保其他ニ関シ六ヶ敷条件ヲ提出スルコトナク速ニ調印ヲ見ルニ至ランコトヲ希望スル旨并ニ同人ハ追テ交通銀行総理ニナルコトニ内定シ居ル趣ヲ述ヘ尚極秘トシテ陸宗輿ハ徐世昌、段祺瑞等ノ内命ヲ帶ヒ支那ノ(不明)日本当局ノ意嚮ヲ探ル為一月中旬全然個人ノ資格ニテ東京ニ赴キ其節日支兩國合辦ニテ実業銀行ヲ組織スルノ計画(往電第一〇八八号参照)ヲモ齎ラス積ナリト内話セル由ナリ総理大臣大蔵大臣限りノ含迄ニ御内報アリ度シ

五三四 十二月三十日

門野大倉組頭取ヨリ
小幡政務局長宛

交通銀行借款交渉ニ付テハ大倉組河野以外ノ者ノ別働ヲ認メザル様申出ノ件

大正五年十二月三十日

大倉組 門野 副頭取

外務省

小幡政務局長殿

謹啓益々御清穆奉慶賀候

竜光ハ本日其ノ部下ヲ当地台湾銀行ヘ遣ハシ本月十三日附國務院ヨリ竜光宛左ノ通ノ電報ヲ示シテ百万円ノ借款ヲ申込ミタルカ同支店長ハ從來ノ行懸上言下ニ之ヲ拒絕スルヲ不便トシ兎ニ角本店ニ掛合フヘキ旨ヲ答ヘテ引取ラシメタル趣ナリ

以下右電報ノ訳文

屢々軍餉難屈ノ状況ヲ電請シ來レル処中央ノ財政モ同様困難且為換送金ノ不便アリ只此後軍餉統カサレハ軍心離レ意外ノ事變ヲ生スル憂アリ深ク懸念ニ堪ヘサル次第第二付財政部ニ諮リ速ニ籌辦セシムル外便宜其ノ地方ノ銀行ヨリ借款シ急要ニ充テ尚其ノ詳細ナル数ヲ財政部ニ報告シ財政部ヨリ之ヲ整理スル様セラレタシ
公使、上海、肇慶ヘ電報セリ

五三六 七月十五日

青木陸軍中將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

広東將軍府ノ借款申込及段祺瑞ノ三井ヨリ武器購入申込ニ関シ報告ノ件

(七月十七日外務省接受)

青木 中將

総 長 宛

第一七七号 井戸川電

広東將軍府借款問題ニ就テハ其後聞ク所ナカリシカ本十五日將軍府員^{キニョウ}ナルモノ台湾銀行ニ来リ北京政府ハ電済光ヲ援助スルニ決シタリトテ其借款認可ノ電報ヲ示シ百万元ノ借款ヲ申込ミタリ但シ内四十万元ハ従来借款ノ返済ニ充ツルモノニシテ担保トシテ広東酒税、「セメント」会社及大砂島ノ一部提供セリト

数日前歩兵銃二万挺騎銃三千機関銃二十四挺ノ秘密購入ヲ当地三井ニ交渉シ来レルモノアリ右ハ段祺瑞ノ使者竜雲霽ノ旨ヲ受ケ極メテ内密ナル手段ニ依リ成否ヲ打合スモノナリト称シ三週間以内即チ国会開会前ニ天津ニテ受ケ渡シヲ終ヘタク勿論北京政府ノ護照ヲ受ケ契約成立ト共ニ代金ノ三分ノ一丈ケヲ前払ヒスヘク購入契約ハ上海ニ於ケル某陸軍官憲之ニ任スヘシ(楊護軍使ヲ暗示セリ)ト申込ミタリ右ハ多少疑ヲ存スヘキ点アリ尚取調中ナルモ果シテ事実ナレハ全部広東借款ト共ニ現政府ノ南方威圧準備トシテ大ニ注意スヘキモノナリト認ム

等カ決シテ之等ノ奸策ニ欺カレサル様御取計ヒ願フ、又上海某洋行ニ軍器購買方願出テタルコトノ実否ハ予之ヲ知ラサルモ斯ノ如キハ徒ラニ南方人ノ疑惑ヲ重ネ時局ヲ紛糾セシムルニ過キサルヲ以テ之亦断シテ本交渉ニ応セシメサル如ク御取計ヒヲ請フ云々

五三八 八月十六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

両広都司令岑春煊ノ必要トスル百四十万弗借款
ヲ日本ニテ調達方依頼アリタルニ付請訓ノ件

第二五六号

周善培温宗堯今朝来訪岑春煊ノ要スル差当リノ資金トシテ百四十万弗借款方一昨日段祺瑞ヨリ周善培ニ許可ノ電報アリタル趣ヲ以テ本邦ニテ調達方依頼申出タリ彼等ノ言フ所ニテハ右ハ純然タル政府ノ借款ニテ財政部ニテ調印スルモ可ナリトシ担保ハ政府借款ノコトニモアリ且金額モ少ナキニ付無担保ノコト、願ヒタク利子ハ我方ニ一任ストノコトニテ北京北方側ニテハ日本ヨリノ借款ハ条件苛刻ニテ寧ロ米國ヨリスルヲ可トスルモノ多キモ自分等ハ飽迄日本ヨリシタキ希望ニテ岑春煊ニ対スル従来ノ好意ニモ顧ミ此上尽

六 对中国借款關係雜件 (三) 五三八 五三九 五四〇

五三七 七月十七日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

広東將軍府借款申込及三井ヨリノ武器購入申込ニ付黎元洪大總統ヨリ日本側ガ之ニ応ズルコト無キ様申越ノ件

極秘電報 (七月十八日外務省接受)

坂西大佐

參謀總長宛

坂特電号外

十六日青木中將ヘノ竜済光カ政府ノ許可ヲ得テ台湾銀行ニ借款ヲ申込ミタル問題及上海三井ニ軍器購買方ヲ申込ミタル問題ニ関シ本日夫レトナク大總統秘書ヲシテ黎ニ実否ヲ尋ネシメタルニ黎ハ大ニ驚キ直チニ其秘書ヲ派遣シ左ノ件ヲ依頼セリ

政府ハ去ル十日竜済光ヨリ電報ニテ百萬元借款ノ認可ヲ請求シ来リタルモ(坂極秘電五十六号参照)政府ハ未タ決シテ之ニ認可ヲ与ヘタルコトナシ、惟フニ竜カ該電報ヲ偽造シタルモノナラン竜カ多数ノ電報ヲ偽造シタルコトハ岑春煊ヨリ一括シテ報告アリシ為メ昨今明瞭トナレリ台湾銀行

力ヲ請フトノ趣旨ニ付本官ハ仮令政府借款ニテモ無担保ニテハ好意ヲ表スル資本家モ躊躇スル所アルヘキ旨ヲ注意シタルニ已ムヲ得サレハ公債証書ニテモ抵当トスルコトニハ取計ヒ得ヘシトノコトニ付本官ハ一応右ノ趣本邦ニ通シ置クヘキ旨答ヘ置ケリ彼等ノ口吻ニテハ政府借款トアレハ我方ニテ米國其他ノ競争ヲ恐ル、結果当地限ニテモ容易ニ調達シ得ヘシトノ虫ノヨキ考ラシク認メラレタリ右ニ対シ何分ノ義御電報ヲ請フ

公使ヘ電報セリ

五三九 八月十六日 青木陸軍中將ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

両広都司令岑春煊代表周善培ヨリ百四十万円
借款日本資本家ニテ調達方依頼アリタル件

(八月十七日外務省接受)

青木中將

參謀次長宛

第二百七号

予テ岑春煊ノ代表トシテ北京ニ趣キアリシ周善培数日前当地ニ歸リ昨日来訪シテ曰ク軍務院善後經費ニ充ツルタメ差

当り百四十万円ノ調達ニ就キ先般来支那政府ニ交渉セシモ財政困難ノタメ其融通ヲ得ス便宜上海、広東等ニテ適宜ノ策ヲ講スルノ許可ヲ得来リタルニ就キ此際岑春煊ノ名義ヲ以テ政府ノ保障ニヨリ我資本家ヨリ該金額借入レ方配慮ヲ乞フ云々

依テ小官ハ時局統一ノ今日ニ於テハ直接領事ニ依頼スル方然ルヘキ旨ヲ含メ且ツ成ル可ク広東ニテ其交渉ヲ行フコト得策ナルヘシト告ケ置キタリ

五四〇 八月十七日 石井外務大臣ヨリ
在上海有吉総領事宛(電報)

岑春煊ノ百四十万弗借款申込ニ対シ確實ナル担保及中央政府ノ保証必要ナル旨訓令ノ件

第九六号

貴電第二五六号ニ関シ

確實充分ナル担保及中央政府ノ保証アルニ非サレハ当方ニ於テ貸主ヲ求ムルコトモ至難ナルヘシト思考セラル、ニ付其旨先方ヘ談話シ置カレタシ
右参考ノ為北京ヘ転電アリタシ

五四一 八月二十一日 在上海有吉総領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

周善培等ヨリ広東セメント工場等ヲ担保トシテ一千万弗借款申込ニ関シ諸訓ノ件

第二六一号

貴電第九六号ノ趣周善培等ニ伝ヘタル処周ハ温宗堯同伴今朝更ニ来訪広東ノ長堤々岸官地及「セメント」工廠ヲ担保トシ一千万弗ヲ借款シタク右ハ政府ノ借款ニ付財政総長政府ヲ代表調印スヘク期限ハ五年以上トシ利息ハ本邦側ノ意嚮ニ依リ斟酌スルコトトシ但シ全額手取りノコトニ願ヒタキ旨申出タルニ付本官ハ先ニ岑春煊ヨリ五百萬元借款交渉ノ場合ニモ右ト同様ノ担保ヲ提供サレタルヤニ願ミ一千万元ノ担保トシテハ十分ナラサルヘク且政府借款ナラハ寧ロ北京ニ於テ交渉セラルルヲ便宜ト思考スル旨申陳ヘタル所彼等曰ク右借款ハ全部広東地方ノ用途殊ニ岑春煊ノ資金ニ供セラルルモノニシテ中央政府ハ利害ノ密接ナラサルヨリ兎角熱心ニ周旋セス旁々周善培ハ岑ノ親近者ナルノミナラス又陳総長トモ親善ノ間柄ニ付政府ヨリ委任ヲ受ケ殊ニ本件ヲ斡旋スルモノナリト云ヒ若シ担保十分ナラサレハ右ニ

五四三 八月三十日 在肇慶太田領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

両広都司令岑春煊ヨリ三百万円借款斡旋方依頼アリタルニ付諸訓ノ件

第一二六号

八月二十九日岑春煊ハ旧軍務院費用仕払及都司令部解散費等ニ充ツルタメ今回中央政府ヲ代表シテ日本資本家ヨリ三百万円(三〇〇万円)借款シタク趣ニテ右斡旋方本官ニ依頼アリタリ条件大略左ノ如シ

一、金額 日本金三百万円(三〇〇万円)

二、期限 一ケ年

三、担保 全国塩税(五国借款抵当ノ残部ヲ充ツ)

岑ノ談話ニ依レハ初メ中央政府ニ於テハ旧軍務院並ニ都司令部解散費ハ中央ニ於ケル大借款成立後直ニ支出スルコトトナリ居リシモ大借款ハ急ニ成立シ難キニ由リ中央政府ヨリ特ニ岑ニ対シ一時借款シテ間ニ合スヘク後日中央ニ於テ右借款成立セハ直ニ其ノ中ヨリ償還スヘク且塩税ノ一部ヲ担保トシテ差支ナキ旨申越シタル由ニテ右借款ハ岑春煊或ハ朱慶瀾中央政府ノ代表トシテ調印スヘシト云フ尚上海ニ

同地官有皮革廠ヲ加フルモ可ナリトシ岑ノ場合トハ異ナリ政府ノ借款ニシテ国会ノ承認ヲ得ルコトモ容易ナレハ信用ノ程度モ異ナル旨切リニ力説セルニ付兎モ角今一応右ノ趣ハ本邦側ニ通シ其ノ意嚮ヲ問合スヘク答ヘ置ケリ就テハ何分ノ御意見御電報ヲ請フ

肇慶、北京、広東ヘ電報セリ

五四二 八月二十五日 石井外務大臣ヨリ
在上海有吉総領事宛(電報)

周善培ノ一千万弗広東借款申込ニ対シ交渉ヲ

北京ニ移シ然ルベキ旨回答方訓令ノ件

第一〇一号

貴電第二六一号ニ関シ此際先方申出ノ如キ条件ニテ多額ノ借款ヲ地方的ニ商議スルコトハ仮令財政総長ノ調印アリトスルモ到底相談ニ応スヘキ者アラサルヘキニ付南方側有力者ニシテ北京ニ在ル者少カラス殊ニ内閣ニ列シ居ル者モ之アルヲ幸ヒ交渉ヲ北京ニ移シ矢張り中央借款トシテ商議ヲ開始スル外ナカルベキ旨可然周善培等ニ御回答アリタシ
右北京、広東、肇慶ニ転電アリタシ

六 对中国借款關係雜件 (三) 五四四

テ周善培及温宗堯カ交渉セル一千万円借款ニ関シテハ岑ハ何等協議ニ与カラサリシ由ニテ本官ノ注意ニヨリ周ニ照会セル処右一千万円借款ハ成立ノ見込ナキ旨返電アリタル由ナリ就テハ右ニ対スル本官ノ回答振至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

北京広東へ転電セリ

五四四 九月十三日 斎藤公使館付武官ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

岑春煊ノ代表者高爾登ヨリ五百万円ノ借款幹
旋方依頼アリタル件

(九月十四日外務省接受)

次長 宛

斎藤 少将

支極秘第五十六号

岑春煊ノ代表者高爾登ハ一昨十一日本職ヲ来訪シ三百万円ト外ニ雲南省ノ為ニ二百万円計五百万円ヲ借款シ度之カ担保トシテ全国ノ印紙税及商業税ヲ提供スヘク既ニ財政総長ヨリ承諾ヲ得タルカ何分至急ヲ要シ政府ニアリテハ調達困難ナル為自分等ニ於テ資本家ヲ発見シ予備談判ヲ終レハ爾後

五四五 九月十五日 台湾銀行東京支店総支配人代理ヨリ
小村政務局第一課長宛

両広都司令岑春煊ヨリ台湾銀行広東支店へ六
十万弗借款申込アリタル件

附屬書 九月十四日台湾銀行広東支店発同銀行東京支店宛電報写

総外第三一二号

大正五年九月十五日

株式会社台湾銀行東京支店

総支配人代理 (註氏名判読不能)

外務省

小村書記官殿

拝啓先刻御申付ノ弊電写茲許同封差上候間御入手被成下度
右得貴意申候 敬具

(附屬書)

九月十四日台湾銀行広東支店ヨリ同銀行東京支店宛電報写

電信移報 大正五年九月十五日 株式会社台湾銀行東京支店

発信者 総務部長 大正五年九月十四日

午後八時卅分発信

六 对中国借款關係雜件 (三) 五四五 五四六

四八二

政府ニ於テ之カ交渉ヲ完結スヘキ筈ナリ從ツテ適當ノ資本家紹介アリタク現ニ政府ヨリ広東中国銀行券八十万元ヲ受取りシモコレスラ現金ニ交換スルノ途ナク困難シアル旨ヲ語レリ而シテ岑春煊ノ借款ハ曩ニ上海ニ於テ周善培ヨリ有吉總領事ニ申込次テ岑ヨリ直接赤塚領事ニ申出タルモ我政府ニテハ右ノ借款ハ不便ナリトシテ大借款ニ合併スヘク勸告シテ拒絕シタルモノナリ本職ハ一応聴キ取りタル後林公使及小田切トモ協議ノ上本日高爾登ニ対シテ該借款ハ矢張り大借款内ニ合併シテ交渉ヲナスヘク若シ他ニ何等カ適當ナル利権アリトセハ小田切ヨリ他ノ資本家ヲ紹介スルモ可ナリト回答ヲ与ヘタルニ目下困窮ノ状況切迫セルヲ繰リ返シ且適當ノ利権ナキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ同人等ヨリ財政総長ニ大借款ノ速成ヲ迫ルヘク米國借款ノ到底不可能ナル理由及目下ノ状況ニ於テ借款ハ宜シク外交方針ト一致セサルヘカラサルコト並ニ仮令大ナル条件ノ担保ヲ提供シ監督者ヲ入ル、モ海關稅、鹽稅ノ例ニ照シテ決シテ危險若クハ不利益ナキコト否寧ロ大ニ財源ヲ整理シ且發達スル所以ヲ説得シタルニ同人ニ於テモ充分之ヲ了解シ陳財政総長ニ談判シタル上更ニ爾後ノ援助ヲ乞フ旨ヲ述ヘタリ

受信者 総支配人 大正五年九月十五日

午前九時五十分受信

電文

広東支店ヨリ左記意味ノ申出アリタリ

岑春煊ヨリ六拾万弗ヲ中国銀行紙幣八拾万弗ヲ担保トシテ借入申出タリ広東支店金勘定五拾万円岑都司令、陸督軍、朱省長連帶債務式ヶ月担保中国銀行弗紙幣八拾万弗北京政府保証利率月八厘五毛ニテ貸出承諾シタシ領事モ賛成セリト

右貴方御交渉中ノ岑春煊式百万円借款ニ關係アルト思ハルニ付外務省トモ御打合セノ上御見込ト共ニ電信頼ム

五四六 九月十六日 石井外務大臣ヨリ
在広東赤塚總領事宛(電報)

両広都司令岑春煊台湾銀行へ二百万円借款申込ニ関シ同行東京支店ヨリ広東支店宛電報轉達方訓令ノ件

第六八号

当地台湾銀行支店ヨリ同行貴地支店へ左ノ電報轉達方依頼アリタルニ付左様取計ハレ度シ

四八三

『岑春煊申込二百万円ノ件担保其他条件尚研究ヲ要スヘキ
モ前ノ二十万円ハ返済セシムルコト、シ大体貸出差支ナキ
見込本月末迄ニ支店長貴地着ノ上相談スヘキニ付担保關係
等取調報告セヨ若シ其ノ前緊急必要アリトセハ五十万円位
ノ範圍ニテ北京大借款又ハ前記当行借款成立ノ上ハ返済ス
ルコト並ニ中央政府承認ヲ条件トシ金勘定岑都司令陸督軍
朱省長連帶債務中国銀行保証トシ担保ハ税金其他出来得ル
丈ケ有効ノ担保徵求ノ上短期融通差支ナシ尤モ五国団ノ関
係モアリ使途ハ經濟的ニ限り置キ度シ總領事ト相談可然願
フ』

右為参考太田領事へ転電アリタシ

五四七

九月十六日

石井外務大臣ヨリ
在肇慶太田領事宛(電報)

岑春煊ノ台湾銀行二百万円借款成立セバ同人

ヨリ太田領事ニ斡旋依頼アリタル三百万円借

款ハ不要ト認ムル旨指示ノ件

第六〇号

岑春煊ヨリ台湾銀行広東支店ニ対シ兩広都司令部ノ經費ニ
充当スル為メ担保民国四、五年内国公債相当額、保証北京

財政部等ノ条件ヲ以テ金貳百万円ノ短期借款ヲ申込ミ来リ
同行ニ於テハ条件次第ニテハ之ニ応ジ差支無キ内意ナル趣
ナリ当方ニ於テハ右成立ノ曉ニハ同一目的ナル貴電第一二
六号岑ヨリ貴官ニ申出ノ参百万円借款ハ自然不要ニ帰スル
モノト認メ居ル次第ナルニ付右御含アリタシ

右為参考廣東總領事ニ転電アリタシ

五四八

十月二十四日

在沙面井上陸軍少佐ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

李烈鈞軍後始末等ノ為ノ都司令部台湾銀行借

款ハ成ルヘク成立セシメ度キ旨稟申ノ件

在沙面 井上少佐

参謀次長宛

都司令部李烈鈞軍ノ跡始末等ノ為台湾銀行ニ釐金税ヲ担保
トナシ二百万円ノ借款ヲ申込ミ殆ント成立ノ運ニ至リタル
ニ中途ニ於テ頓挫ヲ来シ本店ヨリハ經濟借款ノ形式ヲ以テ
五十万円丈ヲ渡シ残額ニ就テハ後ニ協議セヨトノコトナル
モ支那側ニテハ目下取敢ヘス少クモ六十万円ヲ要スル為メ
廣州府衙門ノ土地及建築物ヲ担保トナシ交渉中ナリ然ルニ
李烈鈞軍ノ情態ハ五月借款以來給料ヲ支払ハサルノミナラ

一、借款名義ハ市面救済等適當ナル名目ヲ選フヘキコト

二、金額 四百万円(四〇〇万円)

三、担保 「セメント」廠、大沙頭、皮革廠其他ノ公產

利子期限及償還方法等ニ関シテハ銀行側ノ希望ヲ聴キ更メ
テ交渉決定スヘキ由ニテ本借款ハ中央政府ノ代理トシテ広
東督軍及廣東省長ノ名ヲ以テ借入ル、モノニシテ中央政府
ニテ完全ニ責任ヲ負フヘク既ニ其承認ヲ經タルモノナル由
ナリ

目下廣東省ニ於テハ財政頗ル困難ニシテ借款ニ依ルニアラ
サレハ維持シ難ク依テ頃日来各方面ニ対シ借款ノ申込ヲ為
シツ、アルモノ、如ク邦人側トシテハ香港三井支店ニ対シ
仲介人ヲ通シ「セメント」廠ヲ担保トシテ相当額ノ借款ヲ
為シタキ旨申込ミ尚当台湾銀行支店ニ対シテモ六十万円借
款成立後更ニ大口ノ借款ヲ成立セシメタキ旨申込アリタリ
其他香港外國商人ヘモ交渉シツ、アルモノノ如シ右同一ノ
借款ニ関シ台湾銀行ト三井ト兩方面ニ於テ話ヲ進ムルコト
ハ面白カラサルニヨリ当地兩支店長トモ協議ノ上当地方限
ニ於テハ三井側ハ手ヲ引キ専ラ台湾銀行ニ於テ話ヲ進ムル
コトトセリ、支那側ニテハ一日モ早ク本借款ノ成立ヲ希望

ス昨今ニ至リテハ殆ント給養ノ途サヘ絶エントスル情況ニ
シテ万一該借款成立セサルカ如キコトアリテハ李烈鈞軍ヲ
益々窮況ニ陥レシムヘク之レカ為折角好結果ヲ得ツ、アル
当地方官民ノ対日關係ニ影響ヲ及ホサンコトヲ憂フ由リテ
此ノ際從來ノ行キ懸リ上彼等ニ対シ相当ノ援助ヲ与ヘ彼等
ヲシテ円満ナル始末ヲ為サシムルハ極メテ緊要ノコトト考
ヘラル

五四九

十月三十日

在廣東太田總領事代理ヨリ
寺内兼任外務大臣宛(電報)

廣東省政局善後費用四百万円ヲ台湾銀行ヨリ

借入ヲ希望シ同省財政厅长ヨリ斡旋方依頼ア

リタル件

第二五五号

廣東省ニ於テ政局善後費用ニ充ツル為台湾銀行ヨリ金四百
万円借款シタキ由ニテ右ニ関シ財政厅长嚴家熾ヨリ本官ニ
対シ斡旋方依頼アリタリ右金額ノ内二百萬元ハ目下同行ト
交渉進行中ノ六十万円借款ノ償還竝雲南軍ノ始末費ニ充テ
残りノ二百萬元ハ廣東省政費不足補給竝中国銀行復業ノ資
ニ充ツルモノナリト支那側ノ提出セル条件左ノ如シ

シ居リ若シ台湾銀行ニテ之ニ応スルコト能ハサルトキハ更ニ他ノ方面ヘ交渉スル必要アルニ依リ成否ノ見込ニ関シ至急回答ヲ得タシトノコトニ付然ルヘク御協議ノ上何分ノ義至急御回電ヲ請フ

公使へ転電セリ

五五〇 十一月十九日

在広東太田総領事代理ヨリ
寺内兼任外務大臣宛(電報)

広東政局維持ノ為借款ヲ必要トスル現状等二

付梁啓超ノ談話報告ノ件

第二六三号

梁啓超昨日日本官ヲ訪問ノ際広東借款等ニ関シ大要左ノ通り語リタリ

広東政局ヲ維持スル為ニハ先ツ軍隊ヲ解散シ土匪ヲ勦討セサルヘカラス而シテ現在財政極メテ緊迫シ居ルニ由リ借款ニ依ルニアラサレハ現局ヲ維持スルコト能ハス故ニ自分モ日本トノ借款ヲ成立セシメ広東政局維持ニ資セシメンコトヲ希望ス又広東地方ノ紳士及商界ノ有力者等モ皆目下借款ニ依ルヨリ外ナキヲ諒知シ居レハ決シテ之ニ反対セサルベシ或ハ一二無識ノ徒ノ反対ノ言ヲ為スモノアルヤモ計ラレ

那官憲ガ本邦人ニ対シ目下好感ヲ有スルモノハ右借款ノ成立ヲ期待スルニ因ルモノト察セラル從テ此際我國ニ於テ借款ニ応スルコトハ当地方人ヲシテ我國ノ經濟の威力ヲ悟ラシムル所以ニシテ将来邦人ノ南方發展ニ極メテ有利ナルコト、思考セラル然ルニ此上本邦側ノ回答延引スル(脱)我ニ応諾ノ意ナキヲ疑ヒ窮余他ノ方法ヲ講スルカ或ハ他方面ニ向ヒテ運動ヲ開始スルニ至ルヤモ計ラレス万一斯クシテ好機會ヲ失フニ於テハ遺憾至極ト存セラル、ニ付テハ至急本借款成立方ニ関シ御協議ノ上御回電ヲ請フ

公使へ転電セリ

五五二 十二月十一日

在広東太田総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

広東省当局者ニ於テ財政補救ノ為賭博開設ヲ

企画シ居ルモ四百万円借款成立セバ右企画ハ

取止トナルベキ旨報告ノ件

第二七〇号

主トシテ借款ノ交渉ニ当リツ、アル当地財政庁員ノ談ニ依レハ公民壽商局カ賭博開設ヲ企画シツ、アルハ事実ナルモ只省議會並ニ在北京広東人ノ反対アレハ果シテ実行セラル

六 对中国借款關係雜件 (三二) 五五二 五五三

サルモソハ何等勢力モナキ無頼ノ徒ニシテ憂フルニ足ラス尚梁ハ支那ハ自カラ自國ヲ維持シ得ザル状態ナルヲ以テ外國人ヲ聘シ外國ノ資本ヲ入レテ自國ノ開發ヲ図ラサルヘカラス而シテ外國ノ内ニテモ日本人及日本ノ資本ヲ入ルコトハ總テノ点ニ於テ最モ有利ナリトノ持論ヲ有スル旨ヲ述ヘ自分ハ到ル処ニ此ノ意見ヲ広メ一二年ノ内ニハ國人ヲシテ大部分此ノ意見ヲ有セシムル様努ムヘシト語リタリ委細公信

在支公使ニ転電セリ

五五一 十二月六日

在広東太田総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

広東省四百万円借款供与ニ関シ至急回電方策

申ノ件

第二六八号

往電第二五五号広東省四百万円借款ニ関シ当省ニ於テ今尚他ニ財政補給ノ途ナク借款ニ依ルニアラサレハ政局ノ維持困難ナル状態ナルヲ以テ支那側当局者ニ於テモ其成立方ニ関シ切リニ焦慮シツ、アリ外間伝ヘラル、陸朱間ノ不和ノ如キモ主タル原因ハ財政困難ニアルモノ、如ク將又当地支

ルヤ否ヤ未タ疑問ナリ此際若シ四百万円借款成立セハ各方面ノ反対ニモ拘ハラス無理ニ賭博ヲ開設スル必要ナキモ借款ノ見込立タサルニ於テハ財政補救ノタメ致シ方ナカルヘシ從テ借款成立ニ先チ本計画ノ実行ヲ見ルニ至ラハ四百万円借款談ハ自然取消サルルニ至ルヘシト

尚同人ヨリ支那側ノ希望トシテ事情右ノ如キ状態ナルヲ以テ四百万円借款ノ成否ニ関シ至急何分ノ御回答アル様間合セヲ請フ旨本官ニ依頼アリタリ

北京へ転電セリ

五五三 十二月十九日

在広東太田総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

広東省ノ賭博開始ニハ反対多キニ付我方ガ四

百万円借款ヲ供与セバ各界ノ同情ト感謝ヲ受

クヘキ旨稟申ノ件

第二七二号

(前略)

目下学界、報界及商界中ノ真面目ナル者ハ皆開賭ニ反対シ財政補給ノ策トシテハ賭博ヨリモ寧ロ借款ヲ希望シツ、アルヲ以テ此際日本ニ於テ四百万円借款ニ応スルコトハ以テ

賭博開始ヲ中止セシメ各界ノ同情ト感謝トヲ得ル絶好ノ機會ト思ハル、ニ付至急御協議ノ上何分ノ儀御電報ヲ乞フ在支公使へ転電セリ

五五四 十二月二十日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

広東省ヨリ申込ノ四百万円借款ニ付我方ノ要求セントスル条件ニ関シ意見問合ノ件

第五二三号

広東ヨリノ転電ニテ御承知ノ広東省ヨリ台湾銀行ニ申込居レル四百万円借款ハ先般岑春煊等ヨリ申込タル貳百万円借款ヲ包括セルモノト察セラル、処目下帰朝中ノ赤塚総領事(一記註外欄)ノ意見ニヨルモ今回担保トシテ提供セラレ居ル「セメント」廠及皮革廠等ハ何レモ有望ナルモノナル趣ニ付此際我資本家ヲシテ之ニ關係ヲ付ケシメ置クハ将来ノ經濟關係上好都合ナルノミナラス我資本家ニ於テモ本件借款ニ応スルコトヲ希望シ居ル次第ナルカ借主及使途ヲ支那側申出ノ如クスルニ於テハ借款名義ヲ如何ニスルモ政治借款タルノ疑ヲ招クコト必然ニシテ面白カラサルニ付

一、借主 「セメント」廠

右為参考広東へ転電アリタシ

(欄外註記)

「一」 広東省三水、四会、蘆苞三常関厘金稅年収七十七萬余弗ハ岑春煊ニ対スル台湾銀行廿万円借款ノ担保トナリ居リタルモノナリ
二 八十万円借款担保ハ旧広州府衙門、布政使衙門官有土地建物時価百万円海關敷地」

五五五 十二月二十日 青木陸軍中將ヨリ
上原参謀總長宛(電報)

広東省ニ於ケル賭博開設計画ニ対スル反對運動ニ鑑ミ此際日本ノ借款供与ヲ可トスル件

(十二月二十一日外務省接受)

青木中將

総長

第二百七十六号

広東井上少佐電、賭博公開ニ反對シツ、アル新聞南越報主筆ハ一昨十七日午後二時広告依頼ニ名ヲ藉レル数名ノ者ニ拿捕セラレテ慘殺セラレタリ新聞団ハ軍人派ノ処置ト認メ督軍及び省長ニ対シ極力犯人ヲ捜査シテ之ヲ嚴罰ニ処スヘキコトヲ要求シ及全国支那新聞ニ事情ヲ打電シテ輿論ヲ喚

六 对中国借款關係雜件 (三) 五五五 五五六 五五七

二、貸主 台湾銀行又ハ台湾銀行ノ指定セル銀行ト共同スルコト
三、金額 三百万円
四、目的 「セメント」廠資金供給
五、担保 「セメント」廠及之ニ属スル全財産
六、保証者 広東省政府
七、元利ノ支払ヲ為ス能ハサル場合ニハ保証者広東省政府ハ借主ニ代リ弁済スルコト
但右弁済ハ皮革廠ノ収入及同省内ノ厘金稅其他ノ租稅ヲ以テ支払ヲナスモノトシ尚別ニ保証債務弁済ノ担保トシテ八十万円口担保及大沙頭及皮革廠全財産ヲ差入ル、コト
八、広東省内諸税金ノ取扱銀行トシテ台湾銀行ヲ指定スルコト
九、利子、期限、返済方法等ニ関シテハ当事者ヲシテ協議セシムルコト
以上ノ如キ条件ニ改ムルニ於テハ台湾銀行ヲシテ右借款ニ応セシメ差支無キ当方ノ意嚮ナル処右ニ関スル御意見承知致度ニ付何分ノ義至急当方並広東へ電報アリタシ

(二記註外欄)

起スヘキ件ヲ決意セリ而シテ陸榮廷ガ該事件ニ關係アルヤ否ヤ不明ナルモ賭博公開開始反對ノ声高マリツ、アル場合ナレバ之ト關聯シテ陸及其周囲ノ者ニ対スル批難ノ声高シ仍テ此場合日本借款ヲ成立セシムルコトヲ得ハ賭博ノ公開ヲ中止セシメ得ヘク從テ該借款ノ価値モ大ナルヘント信ス北京スミ

五五六 十二月二十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

広東省借款ニ関シ我方提出条件ニ異存ナキ件

第一一六二号

貴電第五二三号広東借款ノ件異存ナシ

在広東総領事代理へ電報セリ

五五七 十二月二十二日 本野外務大臣ヨリ
在広東太田總領事代理宛(電報)

広東省四百万円借款ノ交渉開始差支無キ件

第八六号

広東省四百万円借款ノ件貴官ニ転電済ノ在支公使宛往電第五二三号所載ノ趣旨ニヨリ交渉ヲ開始シ差支無キニ付然ル可ク關係者ヲ御指導アリタシ

五五八 十二月三十日 在広東太田総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

広東借款ノ条件ニ付交渉結果報告及之ニ対ス
ル政府意向問合ノ件

第二七三号

貴電第八六号ニ関シ数回交渉ノ結果支那側ニ於テハ台湾銀行提出条件ノ大体ヲ承諾シタルモ結局第八項同銀行ヲ税金取扱銀行トシテ指定スルノ件ハ各方面反對ノ憂アルタメ絶對ニ承諾シ難ク第七項中保証債務弁済ノ担保トシテ大沙頭皮革廠及六十万円借款ノ担保ヲ充当スルコトハ差支ナキモ釐金税及皮革廠ノ收入ヲ以テ之ヲ仕払フ云々ノ件ハ既ニ借款額ニ対シテ充分ナル担保ヲ提供シタル上更ニ釐金税ニ拘束ヲ加フルコトナリ負担広大ニ過クルタメ到底中央政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナル旨申出タリ当地台湾銀行支店長ハ支那側ノ申出ハ事情已ムヲ得サルモノト認メ右二点ハ当方ニ於テ之ヲ譲歩シ此際至急本借款ヲ成立セシムル方得策ト思考スル旨日本本店ヘ電報セリ右本官モ同意見ナルカ万一貴方ニ於テ御異議有之ニ於テハ至急御電報ヲ請フ
在支公使ヘ電報セリ

(附屬書)

裕繁鉄礦公司鉄礦石売買契約書

裕繁鉄礦股份有限公司全權代表霍守華(以下単ニ甲ト称ス)ハ
中日実業公司代表(以下単ニ乙ト称ス)ト契約ヲ締結スル
コト左ノ如シ

第一条 甲ハ安徽省繁昌県北郷桃冲鉄礦山ヨリ採出スル鉄
礦石ヲ乙ニ売渡スモノトス其受渡礦石数量ハ毎日壹千噸
ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ズ、本契約調印ノ日ヨリ四十
ヶ年ヲ以テ期限トス

甲乙前項ノ礦石数量ヲ増加シ又ハ前項ノ期限ヲ延長セン
ト欲スル場合ニハ農商部ノ許可ヲ得ルニ非サレハ無効ト
ス

第二条 四十年ノ期限ニ達セサル前ニ於テ礦石尽キタル時
ハ其礦石尽キタル日ヲ以テ本契約消滅ノ日トナシ甲ハ別
ニ其不足礦石ヲ補足セサルモノトス若シ兵乱其他天災不
可抗力ノ事變ノ為メ採掘事業ニ差支ヲ生シタル時ハ其事
變ノ平復ヲ俟チ引続キ契約ヲ実行スルモノトス

第三条 甲ハ予メ礦石採掘施工計画及ビ工事ノ予算表ヲ編
製シ其計画ニ依リ採掘事業ニ従事シ若シ不経済ノ工事ヲ

四 中日実業株式会社關係借款

五五九 四月十八日 尾崎中日実業取締役ヨリ
小池政務局長宛

桃冲鉄山ニ関シ裕繁鉄鉱公司ト鉄鉱石売買契
約書ニ調印シタル旨報告ノ件

附屬書 裕繁鉄礦公司鉄礦石売買契約書

(四月二十日接受)

大正五年四月十八日

東京市麴町区内幸町一丁目三番地

中日実業株式会社

外務省

小池政務局長殿

尾崎 敬 義(印)

拝啓予テ御高配ヲ煩シ居候安徽省繁昌県桃冲鉄山ノ件ニ付
テハ其後支那政府ト交渉ノ結果同政府ノ希望ニ依リ裕繁鉄
礦公司トノ原契約ヲ別紙ノ通修正シ裕繁鉄礦公司鉄礦石売
買契約書ニ調印致シ右ニ対シ本年二月十七日支那農商部ノ
認可ヲ得候間右御含置被下度別紙相添此段得貴意候 敬具

ナス時ハ乙ヨリ勸告シテ改良セシムヘシ

第四条 礦石ノ値段、礦石採掘費、運搬費、船積費及ヒ輸
出税(但シ各種地方税ハ之ニ加算セス)等ノ額ニ就テハ
礦石受渡シ開始ノ時協議決定スルコトトシ外ニ甲ノ取得
スベキ利益每一噸上海規銀一兩並ニ甲ノ会社事務費及ヒ
一切ノ間接経費トシテ每一噸銀壹元以内トス
以上三項ノ経費ハ将来礦石値段ヲ決定スル標準トナシ三
年毎ニ甲乙協議ノ上決定スルモノトス

第五条 礦石代金ハ礦石船積後上海ニ於テ交付スルモノト
ス

第六条 礦石ノ成分ハ含有鉄分百分ノ五十以上タルベシ、
若シ百分ノ五十二達セザル礦石ハ其成分百分ノ一毎ニ上
海規銀一錢ヲ礦石代金ヨリ扣除スベシ

第七条 契約調印ノ日乙ハ手付金トシテ銀貳拾萬元ヲ甲ニ
交付シ甲ハ此ノ手付金ニ対シ年六分ノ利子ヲ附シ毎年乙
ニ支払フベシ、此ノ手付金ハ礦石代金ノ一部トシ礦石採
掘運搬開始ノ時甲乙協議ノ上船積礦石代金ノ内ヨリ扣除
償還スルモノトス

第八条 甲ハ予算ニヨリ礦石運搬用鉄道及ヒ埠頭ヲ修築シ